指名業者の事後公表

公募型など100件で試行

国交省

国土交通省は、指名業者の事後公表を、詳細条件審査型一般競争入札と公募型指名競争入札で、それぞれ50件ずつ試行することを決め、1日付けで各地方整備局に通達した。

小幡政人事務次官を委員長とする省内の「公共工事の入札契約の適正化徹底のための方策検討委員会」が13年度末にまとめた報告を踏まえた措置。報告では、同省が実施している指名業者の事前公表について「透明性の確保による恣意的指名の排除や、非指名業者の不服申し立て機会確保などの観点から有効であるとの考えに変わりはない」としながらも、談合を助長するとの指摘があることを踏まえ、詳細条件審査型一般競争入札の全件数の3割と、公募型指名競争入札の3％程度で指名業者の事後公表の試行を決めていた。

詳細条件審査型一般競争入札は、概ね2億～7・5億円の工事で実施している公募型指名競争入札の一部で、昨年末から試行しているもので、一定の条件を満たした企業すべてが入札に参加できる。14年度は150件程度の試行を予定していることから、約3割となる50件で事後公表を試行する。

7月1日以降に掲示する詳細条件審査型と公募型を対象に各地方整備局が対象工事を決め、事後公表によって事前公表と比べ何が変わったかなどを検証し、その後の対策を検討する。

指名理由

指名と同時に公表

全直轄工事を対象に

国土交通省は、指名理由を入札参加業者の指名と同時に公表することも決め、同じく1日付けで通達した。全直轄工事が対象で、7月8日以降に指名や公告といった入札手続を行う工事から適用する。

指名理由の公表は、入札契約適正化法で義務付けられているもので、国土交通省では、事務手続きの煩雑さなどから、これまで入札後に公表していた。しかし「公共工事の入札契約の適正化徹底のための方策検討委員会」の報告で、透明性を一層確保するため指名業者の公表と同時に入札前に公表すべきとの指摘があったことを受け、事前公表することにした。

不誠実な行為の有無や技術的な適性、地域性といった条件などで業者をA～Cにランク付けし、上位の企業を指名するといった過程を公表するもので、指名業者名や落札者名と同様に閲覧できるようにする。ただし「どの業者がどんな理由で指名されたのかが重要で、指名の順位は関係ない」との考えから、ランク付けの際の固有名詞は示さない。

坂口厚労大臣が方針

白石綿の原則使用禁止

厚生労働省の坂口力大臣は6月28日、閣議後に会見し、これまで使用が認められてきた白石綿について「原則として使用を禁止する方向で検討を進める」と述べた。今後、同省では、①代替化が困難な石綿製品を確定するための作業②代替化が可能となる時期を把握するための作業③WTOへの通報など対外的な手続き―を踏まえ、具体的な法令の内容や改正・施行時期を確定する。ただ、当面、改正時期のめどを示さず、「業界団体からのヒアリングや関係省庁との協議によって、情報収集と調査に努める」（労働基準局安全衛生部）方針だ。

大臣の発言は、中村敦夫議員から提出された「アスベスト禁止措置に関する質問趣意書」に答えたもの。石綿（アスベスト）は、発がん性が高く、健康に被害が生じる懸念があるとして、平成7年に労働安全衛生法、同施行令で青石綿と茶石綿の製造、輸入、使用を禁じた。白石綿は、他の石綿と比較して発がん性が低い点や優れた耐熱性、耐腐食性があって、他の物質での代替が困難とみて、使用禁止とはせず、ばく露防止対策による管理の徹底にとどめていた。

除外対象については、「耐熱性、耐腐食性などの性能、使用状況などをもとに、真に使用がやむを得ない石綿製品に限定する」としており、大部分が禁止対象になるとみられる。

現在、石綿の使用量のうち、9割以上が建材製品に使用されており、さらに約半分が屋根材として使われているという。

国土交通省

16日は「国土交通Day」

国土交通省は、7月16日の「国土交通Day」を中心に都道府県などの協力・後援を得て全国でさまざまなイベントを実施する。

国土交通行政への国民の理解と支援を目指し、国土交通省が発足した昨年から、国土交通省設置法が公布された日を「国土交通Day」と決め、国民参加のさまざまなイベントを実施。

今年のテーマは「365日・住み良い。国づくりガンバル」で、関係施設の見学会や国営公園の無料開放、小中学生による図画・作文コンクールなどのほか、講演会や展示会も開く。

タワー

高校生体験学習に期待

技能者確保

この夏行われようとしている試みが注目されそうだ。それは、愛知県内にある公立高校6校の土木系生徒20人が、8月の夏休みの期間を利用して、3泊4日の日程で、静岡県富士宮市にある全国建設産業教育訓練協会「富士教育訓練センター」で実習するという試みだ。

従来、工業高校などに就学している高校生の現場体験の場として、インターンシップ（就業実習）制度がある。ところが、この就業実習を体験した生徒や教育現場にいる先生からは、「お客さん扱い」「体験期間が短すぎる」といった声が聞かれ、必ずしもすべてが目的にかなった内容にはなっていないようだ。一方で、体験の場を提供する企業側にしても、「もしけがでもさせたら大変だ」という不安があって、もう一歩踏み込んだ実習がさせられない。なにより、建設不況のあおりから、企業側の受入先が見つかりにくくなっている。

そうした中、愛知県建設業協会が、愛知県高等学校土木教育研究会との意見交換の場で、富士教育訓練センターを紹介したことが、同センターとしては、「初の現役高校生受け入れ」が実現するきっかけとなった。

このところ、業界といわず行政といわず、取材を通して、建設業を支えている技能者の確保と育成をどのようにすべきかという問題に、よくぶつかる。専門工事業も含めた中小建設業にとっては、建設産業の将来を考えるうえで、技能者の育成は切実な問題だ。発注側から技術の質が強く求められるようになった今日では、なおさらである。とはいえ、長期化している景気の低迷が、業界にとって技能者の育成どころか確保にも大きく影響している。

愛知の場合も、将来に向けて若年技能者の確保に危機感を抱く建設業協会と、生徒の就職先に悩む学校の考え方の歯車がかみ合って、センターでの実習が決まった。特に技能者の高齢化が進む専門工事業界からの要望が強く、学校側にとっても就職の選択肢を広げたいという意向が実現の背景となっている。

こうした状況は、愛知県内にとどまらず、全国的な問題と捉えることができよう。就業体験の場として、同センターの存在は貴重だ。しかし、全国的に受け入れを展開するとなれば、まず費用負担をどうするのかといった直接的な課題がある。今回の実習では、生徒は食費や交通費などの実費1万1000円を参加費用として支払い、残りを協会が負担するという。遠距離からの希望を実現するためには、まず旅費の手当てから考える必要がある。

初めての試みには、「危惧（きぐ）」はつきものだが、ともあれセンターでの実習は8月にスタートする。学校側では今後、土木系に限らず建築系生徒の実習も視野に入れているという。それだけに、新しい就業体験の試みが成果を挙げ、軌道に乗るためには、センターとしてもその期待に応えなければなるまい。

建設業が人員削減をしなければならない状況下で、技能者の確保・育成という大きな問題はますます膨らんでいく。会員企業が疲弊し、団体の財政は逼迫している。けれども、団体だからこそ、企業単体ではできない課題に挑戦することもできる。今回の試みの成果に期待したい。

本社来訪

板木孝之氏（鹿児島メディア㈱専務取締役）板木健次氏（同営業部・第2エリアマネージャー）井料一也氏（㈱アシスト南九州営業所営業部）＝業務連絡

行政動静

7月4日（木）

【県庁】
- 知事……午前在庁、午後出張
- 副知事……午前在庁、午後庁外
- 土木部長……在庁

【鹿児島市】
- 市長……出張
- 木村助役……市内

【鹿児島国道工事事務所】
- 所長……午前在庁、午後庁外
- 田中副所長……在庁
- 喜多川副所長…在庁

【川内川工事事務所】
- 所長……休み

【大隅工事事務所】
- 所長……庁外

【鹿児島港湾空港工事事務所】
- 所長……在庁

【志布志港湾工事事務所】
- 所長……在庁

【日本道路公団鹿児島工事事務所】
- 所長……在庁

※予定が変更になることがありますので、ご了承下さい。

きょうの天気

地方	天気	風	降水確率
薩摩	曇所一時雨	東やや強くのち強く	30％ / 30％
大隅	曇所一時雨	東やや強くのち強く	30％ / 40％
種子屋久	曇時々雨所雷伴う	東やや強くのち南東強く	50％ / 50％
奄美	雨所雷伴い一時激降る	南東非常に強く	60％ / 60％

※降水確率：上段6時～12時、下段12時～18時

週間天気予報

日	曜	鹿児島・種子・屋久地方 天気	降水確率	気温	奄美地方 天気	降水確率	気温
5	金	時々	60％	28°/24°	時々	60％	31°/26°
6	土	一時	50％	28°/24°	時々	30％	31°/26°
7	日		40％	29°/24°	時々	30％	31°/26°
8	月		40％	30°/23°	時々	30％	31°/26°
9	火	時々	30％	30°/22°	時々	30％	31°/25°

《概況》向こう一週間は、曇りの日が多く期間の前半に雨の降る日がある。期間の初めは台風5号の影響で荒れた天気になる。